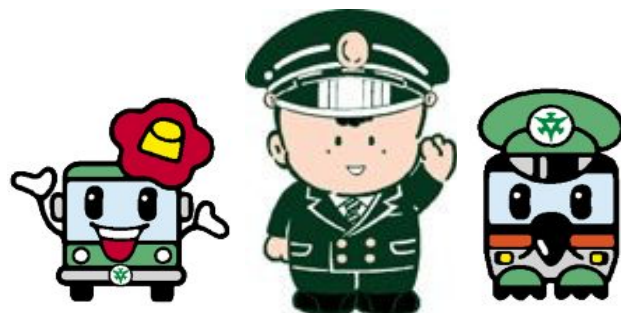


平成16年度 交通局政策推進方針

アクションプログラム2004

～お客様に愛され、信頼される市バス・地下鉄をめざして～



平成16年5月
京都市交通局



市バスの現状



市バス… 市バスは、72系統750台のバスが市内を網の目のように運行し、一日地球を2周する7万8千キロメートルを走り続け、毎日30万人のお客様にご利用いただいています。これは、市内のバス交通のうち85%を占めており、まさに市内交通の中心的な役割を果たしています。



地下鉄の現状



地下鉄… 地下鉄は、都市空間を有効に活用しつつ、地域の発展と活性化に極めて大きな効果をもたらす公共交通機関です。京都市の地下鉄は、烏丸線と東西線の2路線合わせて26.4キロメートルを営業しており、毎日31万人のお客様を安全・確実にお運びしています。



これからの市バス・地下鉄がめざすもの



市バス

平成15年度の黒字経営を今後も継続できるように、更なるサービスアップと徹底したコスト削減に努めます！

地下鉄

平成16年11月に東西線(六地蔵～醍醐間)を開通し、さらに平成19年度中の東西線(二条～天神川間)の開通をめざします！



職員の接遇マナーアップにより、市民に愛される市バス・地下鉄をめざします。



人件費・経費の削減や、更なるサービスの向上により、民間のバスや鉄道事業者に負けない事業運営をめざします。



市バス・地下鉄の各施設のバリアフリー化や、環境に配慮したバス車両や燃料の導入など低公害化の取組をすすめ、ひとや環境にやさしい市バス・地下鉄をめざします。



都市の社会基盤として大切な市民の足である市バス・地下鉄のネットワークを全力で守ります！！

平成16年度の1年間、交通局では、
以下のことに全力で取り組みます！



平成16年度 交通局政策推進方針



1 お客様に便利・快適にご乗車いただく

ための**9**つのアクションプログラム・・・ 1ページ

2 職員の意識改革をすすめる

ための**3**つのアクションプログラム・・・ 6ページ

3 経営を健全化する

ための**9**つのアクションプログラム・・・ 8ページ

4 市民のみなさまと一緒に市バス・地下鉄を考えていく

ための**2**つのアクションプログラム・・・ 12ページ

5 市バスを走りやすくする

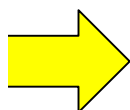
ための**2**つのアクションプログラム・・・ 13ページ

6 ひとや環境にやさしい市バス・地下鉄にする

ための**3**つのアクションプログラム・・・ 14ページ

7 速くて便利な地下鉄の路線を伸ばす

ための**1**つのアクションプログラム・・・ 16ページ



1 お客様に便利・快適にご乗車いただくための9つのアクションプログラム



(1) 路線・ダイヤの改善 【路線再編プロジェクトチーム】

⇒ お客さまにお乗りいただきやすい市バス路線・ダイヤにします。

16年度予算額は
2億3900万円です。



16年度は

○16年3月に見直した路線・ダイヤや乗継モデルの実効性を検証し、今後の見直しに反映させます。

今までの取組

- 14年度 市バス交通調査の実施、西4号の新設 など
- 15年度 乗継無料のモデル路線の試行実施(27号と203号)
ダイヤのパターン化(59、201号など)
ご利用状況に合わせた土曜ダイヤの見直しと学休期の平日ダイヤでの運行 など

(2) 市バスの走行環境改善による定時性の確保 【自動車部営業課】

⇒ 市バスが遅れずに走れるように、バス専用レーンの確保などに取り組みます。

16年度予算額は
4億8000万円です。



16年度は

- 京都府警察に公共車両優先システム(PTPS)の延長を継続して要望します。
- 春と秋の観光シーズンに「おもてなしキャンペーン 都大路作戦」(違法駐停車への啓発活動やお客様のご案内などを労使一体で実施)を実施し、局地的な渋滞の解消に努めます。
- 毎週金曜日に、四条通や河原町通のバス停周辺で、職員の立地により「違法駐停車啓発活動」を行います。
- 「違法駐車等防止指導員」による違法駐停車の啓発活動を月曜日～金曜日に実施します。
- 市バスの走行が困難な場所をスムーズに走れるよう改善を図ります。
- 「運行管理システム」(バスの運行状況を把握するシステム)に使用する機器の更新を順次行います。

今までの取組

- ・公共車両優先システム(PTPS)…13年度 北大路BT～西大路四条間(6.5km)設置
14年度 西大路四条～九条車庫前間(5.0km)設置
- ・バス専用レーンの設置…総延長91.2km(16年3月末現在)
- ・都大路作戦…延べ1,006人参加(15年度実績)
- ・職員による立地啓発活動…延べ304人参加(15年度実績)
- ・運行管理システム車載機更新台数…250台(15年度実績)
- ・違法駐停車指導員による啓発活動…延べ2,150人参加(15年度実績)
- ・走行困難箇所改善状況…川島六ノ坪町(15年度実績)

(3) 運賃制度の改善 【企画総務部総務課】

⇒ より多くみなさまにお乗りいただけるような、魅力的な運賃にします。

16年度予算額は
4500万円です。



16年度は

- お子さんも市バスに乗ってもらいやすいように、市バス一日乗車券に小児券を設定します。
- 小・中・高の2学期制に対応して、料金すえ置きのまま、市バス学期定期券が使える期間を拡大します。
- 他都市からのお客様も使いやすい企画乗車券(地下鉄1dayフリーチケット、京の遊々きっぷ、いい古都チケット、スリット KANSAI 京都1day チケットなど)を今年も発売します。
- 今年度に予定している地下鉄自動出改札機の複数枚対応機への更新(16年度予算額: 11億5500万円)により、将来のICカード乗車券の導入にも対応が可能となります。

今までの取組

- 13年度 市バス専用一日乗車券の車内販売開始
- 14年度 「京都コンベンションパス」の発売開始
- 15年度 大学生通学定期(甲)の均一区間内全線化の実施
トリアフィカ京カードによる市バス・市バス、市バス・地下鉄乗継割引の実施

(4) バス停留所の設置位置の改善 【自動車部技術課】

⇒ 市バスと地下鉄を乗り継ぎやすくするため、地下鉄の駅から遠いバス停を近くまで移動させ、利便性の向上を図ります。

16年度予算額は
390万円です。



16年度は

- 15年度に作成した停留所リストに基づき、3箇所移動させます。

今までの取組

- ・バス停留所の設置位置の改善に向けた取組
- 15年度 改善が必要な停留所リストを作成

(5) IT等の活用による情報提供 【企画総務部総務課】

⇒ 「ポケット・バスロケ」(携帯電話から市バスが今どこを走っているのかを調べるシステム)や交通局のホームページをより使いやすくします。

16年度予算額は
360万円です。



16年度は

- 「ポケット・バスロケ」を公共施設などに設置できるように、表示画面の開発を行います。
- 交通局のホームページで、市バス・地下鉄の乗継情報を提供するための準備や調査を行います。
- どなたでもホームページで提供されている情報に簡単にアクセスし、ご利用いただけるようにする方法を検討します。

今までの取組

- ・ポケット・バスロケ
 - 12年度 携帯型バスロケーションシステム「ポケット・バスロケ」の運用開始
 - 14年度 市バス接近メール通知サービス「ポケロケメール」の実施
- ・交通局ホームページ
 - 9年度 インターネットホームページによる市バス全停留所の時刻表案内を開始

(6) 案内表示の改善 【自動車部営業課】

⇒ 市バスや地下鉄の案内表示を工夫し、お客様や外国からの観光客の方にとって、もっとわかりやすい案内表示にします。

16年度予算額は
8400万円です。

※産業観光局と連携して実施



16年度は

- 国の「観光推奨バス路線指定制度」を活用し、バス停や路線案内板などに外国語表記やナンバリング(数字をつける)をほどこすなど、外国から来られた方がより観光しやすい案内表示への改善に努めます。
- 北大路と洛西にあるバスターミナルの案内表示を改善します。
- 「市バス・地下鉄乗継案内板」を、順次市バス車内に表示します。
- 「京都駅前案内サイン検討委員会」(仮称)を立ち上げ、案内表示の改善について考えます。

今までの取組

- 15年度 京都駅前北口ひろばに頭上案内板、地下鉄今出川駅にバス乗継案内板を設置

(7) バスロケーションシステムの増設 【自動車部技術課】

⇒ バス停でお待ちのお客様に、市バスの接近情報をお知らせする「バスロケーションシステム」を設置します。

16年度予算額は
1500万円です。



16年度は

- バスロケーションシステムを新たに**8基**増設します。
- 公共施設型バスロケーションシステムの設置を推進します。

今までの取組

- 2年度 バス総合運行システム・バスロケーションシステムを一部運用開始
(桂駅西口、京都駅前のりば、西大路通、下鴨・河原町通)
- 5年度 今出川通、東山通などで運用拡大(42基)
- 6年度 竹田街道、九条通などで運用拡大(66基)
- 7年度 バスロケーションシステムの運用拡大(停留所36基、公共施設型5基)
以後、順次増設し、現在**232基**(公共施設内6基含む、16年3月末現在)

(8) イベントの開催・参加 【お客様サービス推進プロジェクトチーム】

⇒ 駅や地域で行われるイベントに参加したり、イベントを開催するなど、親しみの持てる市バス・地下鉄をめざします。

16年度予算額は
170万円です。



16年度は

- 「アートパフォーマンス in 山科駅」を毎月1回開催します。
- ふれあい区民広場に年4回参加します。
- 今年も「スルッとKANSAIバスまつり」へ参加します。
- 「京都・花灯路」や「伝統産業の日」のきものきっぷ(きものでおでかけ・無料乗車券)などの市の取組に参加します。
- 新選組観光キャンペーンや「京都・庭園散策－岡崎－」事業とタイアップします。

今までの取組

- ・アートパフォーマンス in 山科駅…12年度から毎月1回、地下鉄東西線山科駅にある「音の広場」で開催
- ・ふれあい区民広場…9年度から年約4回参加
- ・スルッとKANSAIバスまつり…13年度から毎年参加
- ・市の事業とのタイアップ
 - 13年度 京都映画祭 他
 - 14年度 京都花灯路、世界水フォーラム 他
 - 15年度 二条城築城400年・京都市動物園開園100周年・京都市美術館開館70周年記念事業、京都花灯路、伝統産業の日 他

(9) 観光客誘致施策との連携 【お客様サービス推進プロジェクトチーム】

⇒ 観光客の方に、市バス・地下鉄に乗って観光しやすい京都のまちをPRします。

16年度予算額は
63万円です。



16年度は

○「公共交通でおこしやす・京都市協議会」などの京都市が行う観光客誘致のための取組に積極的に参加します。

今までの取組

- ・「京都市観光振興推進会議(おこしやす推進会議)」(平成12年設置)
【主な取組】「5000万人観光都市・京都」の実現に向け協議を行う。
- ・「京都観光推進協議会」(昭和59年設置)
【主な取組】全国宣伝誘致キャラバン、学校説明訪問の実施
- ・「公共交通でおこしやす・京都市協議会」(平成2年設置)
【主な取組】公的輸送機関利用促進キャンペーンの実施

2 職員の意識改革をすすめるための3つのアクションプログラム



(1) お客様接遇の向上 【企画総務部研修所】

⇒ お客様に快適にご利用いただける市バス・地下鉄をめざして、お客様の立場にたった接遇対応に努めます。



16年度は

- 「お客様第一」サービス運動の取組として「市バス・地下鉄サービスアップ優秀職員モニター制度」を実施し、お客様の立場にたった案内や対応に努めます。
- お客様に対する接遇を更に充実させるため、バス管理部門と職員研修所に新たに接遇や指導を担当する係長を配置します。

(2) 職員研修の充実 【企画総務部研修所】

⇒ お客様第一の安全運転や親しまれる接遇など、お客様サービスの更なる向上をめざした研修に取り組みます。



16年度は

- 全職員を対象とする所属研修では、交通局の現状を再認識し、経営感覚に優れ、お客様のニーズに能動的に対応できる職員の育成を図ります。
- 市バス運転士研修では、研修用模擬コースによる安全運転実技やお客様対応実習などの取組を行います。
- 地下鉄職員研修では、事故防止や異常時の処置訓練、お客様対応実習などの取組を行います。

今までの取組

・所属研修(全職員対象)

13年度	実施回数	99回	延べ受講者数	2,335人	受講率	96%
14年度	実施回数	99回	延べ受講者数	2,390人	受講率	98%
15年度	実施回数	99回	延べ受講者数	2,349人	受講率	99%

・市バス運転士セミナー(3年サイクルで実施)

13年度	実施回数	47回	延べ受講者数	361人	受講率	100%
14年度	実施回数	60回	延べ受講者数	412人	受講率	100%
15年度	実施回数	55回	延べ受講者数	338人	受講率	100%

・地下鉄定期教育訓練

13年度	実施回数	76回	延べ受講者数	1,733人	受講率	100%
14年度	実施回数	76回	延べ受講者数	1,819人	受講率	100%
15年度	実施回数	76回	延べ受講者数	1,833人	受講率	100%

(3) 職員の意識改革 【企画総務部職員課】

⇒ 職員が目標を設定し、その達成度合を評価する「目標管理制度」を導入し、目的意識を持つ職員を育てます。



16年度は

○15年度に課長級職員に導入した「目標管理制度」を、今年度は課長補佐級職員、係長級職員に拡大します。

今までの取組

- ・目標管理制度
15年度 課長級職員に導入

3 経営を健全化するための9つのアクションプログラム



(1) 「管理の受委託」の拡大 【自動車部営業課】

⇒ 交通局が運賃・ダイヤ・路線等の決定に責任を持ちながら、市バスの運行を民間バス事業者に委託する「管理の受委託」を行い、市バスの経営体質を強化します。

16年度予算における
削減効果額は
15億7300万円です。



16年度は

- 市バス九条営業所の一部を民間バス事業者に委託します。
- 平成11年度から「管理の受委託」を行っている市バス横大路営業所の委託期間満了に伴い、より受委託の効果が得られるよう、契約内容を見直します。

今までの取組

- 11年度～12年度 横大路営業所の「管理の受委託」実施
- 15年度 洛西営業所の「管理の受委託」実施

(2) 総人件費の抑制 【企画総務部職員課】

⇒ 職員の給与などを減らすことにより、民間並みの運営コストをめざします。

16年度予算における
人件費削減効果額は
29億円です。



16年度は

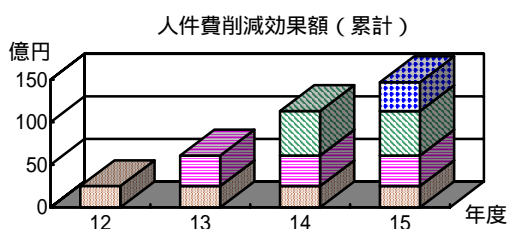
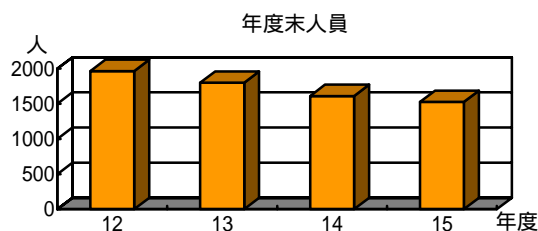
- 15年度に引き続き、超過勤務手当の縮減・職員数の削減・昇給期の延伸など、更なる人件費の削減を行います。

今までの取組

12年度	年度末人員	1,965人(前年度比 △189人)	人件費削減額	25億円
13年度	年度末人員	1,798人(前年度比 △167人)	人件費削減額	36億円
14年度	年度末人員	1,610人(前年度比 △188人)	人件費削減額	52億円
15年度	年度末人員	1,526人(前年度比 △84人)	人件費削減額	34億円(見込)

※12～14年度…「京都市交通事業経営健全化プログラム21」による削減額

15年度～…「京都市交通事業ルネッサンスプラン」による削減額であり、プログラム21から更に削減したもの



(3) 経費の削減 【企画総務部財務課】

⇒ あらゆる経費を減らすことにより、民間並みの運営コストをめざします。

16年度予算における
経費削減効果額は
6億9800万円です。



16年度は

○平成20年度時点で、14年度予算比1割の削減となるよう、委託業務の点検・見直しや業務マニュアルの作成などにより、順次経費を減らします。

今までの取組

15年度予算での削減実績… 3億7100万円

(4) 定期観光バス事業の見直し 【自動車部運輸課】

⇒ 需要が少なくなった定期観光バスを見直し、お客様がより便利で快適に観光できる方法を考えます。

16年度予算額は
9500万円です。



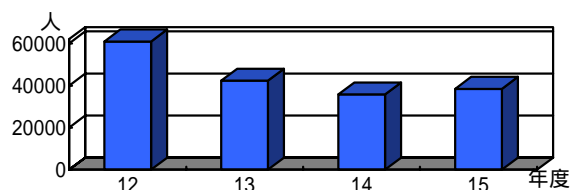
16年度は

○「事業からの撤退」を含め、抜本的に運営方法を見直していくために、共同で事業を実施している京阪バス株式会社と調整し、早急に結論を出すとともに、お客様が便利で快適に観光できる方法を考えます。

今までの取組

12年度…旅客数 60,904 人
13年度…旅客数 42,283 人
14年度…旅客数 35,778 人
15年度…旅客数 38,406 人

定期観光バス旅客数（1日あたり）



(5) 「生活交通」(生活支援路線)の確保方策 【企画総務部総務課・財務課】

⇒ ご利用が少なく民間コストで運営しても赤字となるが、市民生活には欠くことのできない路線(「生活交通」(生活支援路線))の確保を図ります。

16年度予算における一般会計からの新たな繰入額(収入)は

10億1500万円です。



16年度は

○市から新たに「生活支援路線」に対する補助金をいただき、市バスのネットワークを維持していきます。
○「生活交通」を確保していくための新しい仕組みづくりを検討します。

今までの取組

- 14年度 「京都市交通事業審議会」に「生活交通」の確保方策やサービス水準について諮問
- 15年度 「京都市交通事業審議会」から、今後も公営企業として維持していく旨の提言が提出される
- 16年度 市の一般会計において繰入(10億1500万円)予算計上

(6) 地下鉄事業の長期収支改善 【企画総務部財務課】

⇒ 速くて便利な地下鉄ですが、建設費が巨額で、その返済が大きな負担となっていることから、地下鉄の財政構造の強化を図ります。

16年度予算における一般会計からの経営健全化のための出資額(収入)は

57億2500万円です。



16年度は

○国の「地下鉄事業経営健全化対策」制度を活用し、経営健全化の取組とあわせて、市の一般会計から出資をいただき不良債務の抑制を図るとともに、財政基盤を強化します。

今までの取組

- ・地下鉄事業の経営健全化の取組に対して、平成16年3月31日に総務大臣から経営健全化団体の指定をいただきました。
- ・これにより、交通局の健全化の取組に対する一般会計からの支援に対して、国制度による起債措置が認められることとなり、平成16年度から25年度までの10年間において、総額約640億円の支援(出資金)をいただくことになりました。(平成16年度予算額は57億2500万円)
- ・今後10年間における健全化対策による効果額としては、人件費・経費の削減で約299億円、運賃改定の増収分で約254億円を、更にその他の削減効果を合わせると総額約656億円(特例債制度の活用を含めると約782億円)となる見込みです。

(参考)本計画における運賃改定の見込み方

地下鉄運賃の改定について、これまで見込んでいた5年毎に12%の改定を見直し、他都市において建設事業許可を受けられた路線における収支見通し上の見込み方である5年毎に5%の改定を参考に、前回運賃改定を実施した平成8年度からの期間の経過も考慮し、平成17年度に10%の改定を、以降5年毎に5%の改定を見込む。

(7) 地下鉄構内の有効利用 【高速鉄道部営業課】

⇒ 駅の空きスペースを使って様々なサービスを提供し、お客様にとって便利な駅をめざします。



16年度は

○ 四条駅にある「ミニ・コンビニ 都くん」のように、駅の利便性を向上させるための新しい駅構内空間の活用方法を検討します。

今までの取組

- 15年3月 「ミニ・コンビニ 都くん」四条駅店 開店
- 16年4月 「フレッシュジュースショップ」京都駅店 開店

(8) オリジナルグッズの企画・販売 【お客様サービス推進プロジェクトチーム】

⇒ 市バス・地下鉄をモチーフにしたオリジナルの商品をつくり、親しみの持てる市バス・地下鉄をめざします。



16年度は

○ 新しい市バス・地下鉄のオリジナルグッズを販売します。

今までの取組

- 13年度 市バスチョコQ4都市セット、市バスぷるぷる、地下鉄チョコQ、地下鉄くるっぴー、カレンダー発売
- 14年度 市バスちびっこチョコQ、地下鉄電車ごっこ、地下鉄パズレット、カレンダー発売
- 15年度 カードゲームNORINORI、GOGOバス、カレンダー、カラフルトレイン・バス発売

(9) 広告制度のあり方の検討 【企画総務部総務課】

⇒ 広告主にお使いいただきやすい様々な種類の広告を用意し、市バス・地下鉄の収益増をめざします。

16年度広告収入予算額は
9億2200万円です。



16年度は

○ 広告料収入を増やすため、宣伝効果の高い、魅力的な広告媒体を開発します。
○ 京都のまちにふさわしい「ラッピングバス」(車体全体を広告にしたバス)の台数を増やしていきます。

今までの取組

- ・ラッピングバス所有台数… 20台(16年3月末現在)
- ・広告媒体数…市バス-23種類、地下鉄-42種類(16年3月末現在)

4 市民のみなさまと一緒に市バス・地下鉄を考えていくための2つのアクションプログラム



(1) 情報公開と市民理解の推進 【企画総務部総務課】

⇒ 交通局が行っている仕事を市民のみなさまに広く公開し、ご理解いただけるようにしていきます。

16年度予算額は
500万円です。



16年度は

- 「アクションプログラム」の進捗状況をホームページなどで公開します。
- 「京都市交通事業事務事業評価」の評価結果をホームページなどで公開します。

今までの取組

- ・京都市交通事業アクションプログラム
 - 15年3月 新たな事業再生計画「京都市交通事業ルネッサンスプラン」策定(ホームページ等で公開中)
 - 15年4月 「京都市交通事業審議会」から「規制緩和実施下における市バス事業経営のあり方について」の提言を提出(ホームページ等で公開中)
 - 15年8月 それらを一元的に推進する行動計画「京都市交通事業アクションプログラム」策定(ホームページ等で公開中)
- ※ 今後、16年9月を目途に進捗状況を公開予定
- ・京都市交通事業事務事業評価
 - 15年度 試行実施(ただし、実績が出ていないため評価未実施)

(2) 市民とのパートナーシップの推進 【お客様サービス推進プロジェクトチーム】

⇒ 市バス・地下鉄モニターの募集や「お客様満足度調査」を行い、市民のみなさまの貴重なご意見を交通局の仕事に反映させ、みなさまとともに走る市バス・地下鉄をめざします。

16年度予算額は
840万円です。



16年度は

- 15年度に実施した「市バス・地下鉄モニター」からいただいたレポートを事業に反映します。
- 市の「市政情報総合案内コールセンター」の設置準備と連動して、「お客様総合相談窓口」開設に向けた準備に取り組みます。
- 「お客様満足度調査」の結果を事業に反映させます。
- NPO組織との協力関係を築きます。

今までの取組

- ・市バス・地下鉄モニター制度…13年度及び15年度実施
- ・お客様総合相談窓口…開設準備として「市バス・地下鉄案内所」の電話受付機能を強化(15年度)
- ・お客様満足度調査…15年度実施

5 市バスを走りやすくするための2つのアクションプログラム



(1) TDM施策の推進 【企画総務部総務課、自動車部営業課】

⇒ パーク&ライドをはじめ、その他のTDM(交通需要管理)施策に協力し、「歩くまち・京都」の実現をめざします。



16年度は

- 「嵐山交通対策研究会」に参加し、秋の観光シーズンに行われる「嵐山パーク&ライド」などの取組に積極的に協力します。
- 「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン」に基づき、バスロケーションシステムの拡充や走行環境改善の取組を進めます。
- 東山地区での交通社会実験に参加します。

今までの取組

- ・嵐山交通対策研究会
 - 13年度 嵐山地区における交通社会実験へ参加(広報誌の配布、バス専用車線の設置など)
 - 14年度 嵐山地区における交通社会実験へ参加(広報誌の配布、長辻通のトランジットモール化など)
 - 15年度 嵐山地区におけるパーク&ライドへの参加

(2) 公共交通の社会基盤整備 【企画総務部総務課】

⇒ 公共施設型バスロケーションシステムをできるだけ多く設置するとともに、バス転回場を整備し、公共交通を利用しやすい環境をつくっていきます。

16年度予算額は
6800万円です。



16年度は

- 伏見港公園内にバス回転場を設置します。
- 公共施設型バスロケーションシステムを設置に協力いただける施設を調査し、積極的に協議していきます。

今までの取組

- ・公共施設型バスロケーションシステム設置状況
 - 15年6月 「ひと・まち交流館 京都」のご協力で設置
 - 16年3月 「ダイヤモンドシティ・ハナ」のご協力で設置

6 ひとや環境にやさしい市バス・地下鉄にするための3つのアクションプログラム



(1) バリアフリー化の推進 【自動車部技術課・高速鉄道部施設課】

⇒ ノンステップバス(床の低いバス)の導入や視覚障害者誘導用ブロックの設置などにより、ひとにやさしい市バス・地下鉄をめざします。

16年度予算額は
18億1600万円です。



16年度は

- ノンステップバスを69両導入します。(今まで導入した分をあわせると全体の34%となります。)
- 今あるバス停を、ノンステップバスに乗りやすいように改良していきます。
- 視覚障害者誘導用ブロックを4駅に設置します。
- 阪急烏丸駅と地下鉄四条駅との連絡通路の段差解消のための方策をまとめます。

今までの取組

市バスのバリアフリー化

- ・ノンステップバス導入数 13年度-34両 14年度-34両 15年度-67両
累計 189両 (15年度末現在、全体の約25%)

地下鉄のバリアフリー化

- ・エレベーター音声案内及び車いす用副操作盤
建設時に設置…烏丸線国際会館駅、松ヶ崎駅、東西線全駅
～14年度まで…烏丸線鞍馬口駅、丸太町駅、烏丸御池駅、五条駅
14年度 烏丸線北大路駅、四条駅、京都駅、竹田駅
15年度 烏丸線北山駅、今出川駅、九条駅、十条駅、いな橋駅 → **全駅設置完了**
- ・視覚障害者誘導用ブロック
15年度 23駅に敷設(全27駅のうち85%)

(2) 市バス車両の低公害化 【自動車部技術課】

⇒ 天然ガスバス(天然ガスを燃料とするバス)やアイドリングストップバス(停車時にエンジンが止まるバス)などを導入し、環境にやさしい市バスをめざします。

16年度予算額は
1億7800万円です。



16年度は

- 天然ガスバスを3両導入します。
- アイドリングストップを新しく購入するバス(66両)に装備します。
- DPF(ディーゼル排気微粒子除去装置)を8両に設置します。
- バイオディーゼル燃料(使用済食用油をリサイクルした燃料)を軽油に20%混合し、引き続き横大路営業所のバスで使用します。

今までの取組

・天然ガスバス導入数	13年度－ 3両	14年度－ 3両	15年度－ 3両	累計	27両
・アイドリングストップバス導入数	13年度－31両	14年度－31両	15年度－64両	累計	216両
・DPF設置車両数	13年度－ 8両	14年度－ 8両	15年度－ 5両	+	累計 21両
				合計	264両
					(全750両のうち約35%)
・バイオディーゼル燃料使用車両数	84両(15年度末現在)				

(3) 地下鉄の安全対策 【高速鉄道部施設課】

⇒ 非常停車通報ボタンや車両間転落防止装置(地下鉄ホームから車両と車両の間への転落を防ぐ装置)の設置により、どなたにでも安全にお乗りいただける地下鉄をめざします。

16年度予算額は
2000万円です。



16年度は

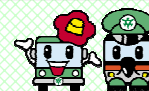
- 安全輸送に向けた取組として、駅施設や車両などの確認作業を徹底します。
- 車両間転落防止装置を**4編成**に設置します。

今までの取組

- ・京都市高速鉄道防火安全対策委員会
14年度～ 「交通・消防両局合同特別訓練」の実施
訓練結果を踏まえた職員に対する周知徹底の実施
- ・非常停車通報ボタン設置数※…**烏丸線全14駅で1ホームあたり3基増設完了**
13年度－6基 14年度－12基 15年度－12基(設置完了)
- ・車両間転落防止装置設置数※
13年度－3編成 14年度－5編成 15年度－5編成
累計 14編成(烏丸線全20編成のうち70%設置、16年3月末現在)

※東西線は、ホームドアがあるため設置不要

7 速くて便利な地下鉄の路線を伸ばすための1つのアクションプログラム



(1) 地下鉄東西線の延伸 【建設室総括担当】

⇒ より多くの市民のみなさまや観光客の方にご利用いただけるように、地下鉄の路線を伸ばします。

16年度予算額は
180億700万円です。

※建設局事業の道路補助対象分
(70億3400万円)を含む。



16年度は

- 地下鉄東西線の六地藏～醍醐間の工事や試運転を進め、11月末に開通させます。
- 地下鉄東西線の二条～天神川間の19年度の開通を目標に、土木工事を計画どおりに進めます。

今までの取組

- ・地下鉄東西線(六地藏～醍醐間) **総事業費 612億円**
10年 5月 6日 鉄道事業免許取得
11年10月 1日 工事着手
(16年11月末開通予定)
- ・地下鉄東西線(二条～天神川間) **総事業費 745億円**
13年 5月 9日 鉄道事業許可取得
14年11月 8日 工事着手
(19年度中開通予定)

【掲載先】

本誌は、交通局のホームページに掲載しておりますので、興味をもたれた方は、下記のアドレスにアクセスしてみてください。

京都市交通局ホームページ

<http://www.city.kyoto.jp/kotsu/>

【お問い合わせ先】

受付時間 平日(月～金) 8時50分～17時20分

本誌に書かれている内容で何かご不明な点がございましたら、下記の担当課までお気軽にお問い合わせください。

本誌全般

京都市交通局 企画総務部総務課（経営計画）

075-822-9104

FAX 075-822-9247

市バス

- | | | |
|-------|-----------------|--------------|
| ○ 路線 | } 路線再編プロジェクトチーム | 075-822-9221 |
| ○ ダイヤ | | |
| ○ 運賃 | 企画総務部総務課 | 075-822-9104 |
| ○ 運行 | 自動車部運輸課 | 075-822-9150 |
| ○ 車両 | 自動車部技術課 | 075-822-9155 |
| ○ その他 | 自動車部営業課 | 075-822-9140 |

地下鉄

- | | | |
|-------|----------|--------------|
| ○ 運賃 | 企画総務部総務課 | 075-822-9104 |
| ○ 運行 | 高速鉄道部運輸課 | 075-822-9168 |
| ○ 施設 | 高速鉄道部施設課 | 075-822-9185 |
| ○ 建設 | 建設室総括担当 | 075-822-9176 |
| ○ その他 | 高速鉄道部営業課 | 075-822-9164 |

市バス・地下鉄共通

- | | | |
|----------------------------|--------------------|--------------|
| ○ 財政状況 | 企画総務部財務課 | 075-822-9127 |
| ○ 人件費等 | 企画総務部職員課 | 075-822-9117 |
| ○ 職員研修 | 企画総務部研修所 | 075-643-4601 |
| ○ イベント、オリジナルグッズ、パートナーシップなど | お客様サービス推進プロジェクトチーム | 075-822-9165 |